ミンタㇻ

アイヌ語で「広場」の意味

文　北原 次郎太　　絵　小笠原 小夜

テーマ

春の祭り

アイヌ民族は、たくさんのカムイ（神様）を信じ、大切にしてきました。暮らしに必要な物はすべて、カムイのおくりものだと考えてきたからです。

森、山、海といった自然や動物に宿るカムイ、町や畑などを守るカムイ、船や家など人が作ったものに宿るカムイ。家の中にも、みんなが囲む「いろり」で火のカムイが見守っています。

家の外には「ヌササン」という、神様をまつる場所を設け、長い木をけずってふさにした「イナウ」を立ててささげます。今はヌササンがある家は少なくなりましたが、釧路、十勝、日高、石狩管内などの集会所や博物館に設けられ、行事をしています。

さて、アイヌは1年を春夏と秋冬の二つに分けて考えていました。春夏をサクパ（夏の年）、秋冬をマタパ（冬の年）と呼び、変わり目となる春と秋には大きな祭り「コタンノミ」を行います。コタンは村、ノミはいのりという意味で、春には冬の無事を感謝し、夏の間に災いがないよう願います。

この日は、地域の人々が集まって、たくさんのカムイや先祖にいのります。

ぎしきにはきまりがあります。男の人はいろりをはさみ向かい合って座り、女の人は後ろに並びます。ふだんとはちがう難しい言葉を使い、歌うように唱えることもあります。

神様にささげるお酒を「お神酒」といいます。この祭りでも、男の人が左手にお神酒を入れた「トゥキ（おわん）」を持ち、右手には「イクパスイ」という道具を持ちます。長さ30㌢ほどのへらのような形で、お神酒をつけてヌササンにたらし神様に届けたり、いのりの言葉を伝えるものとして使います。

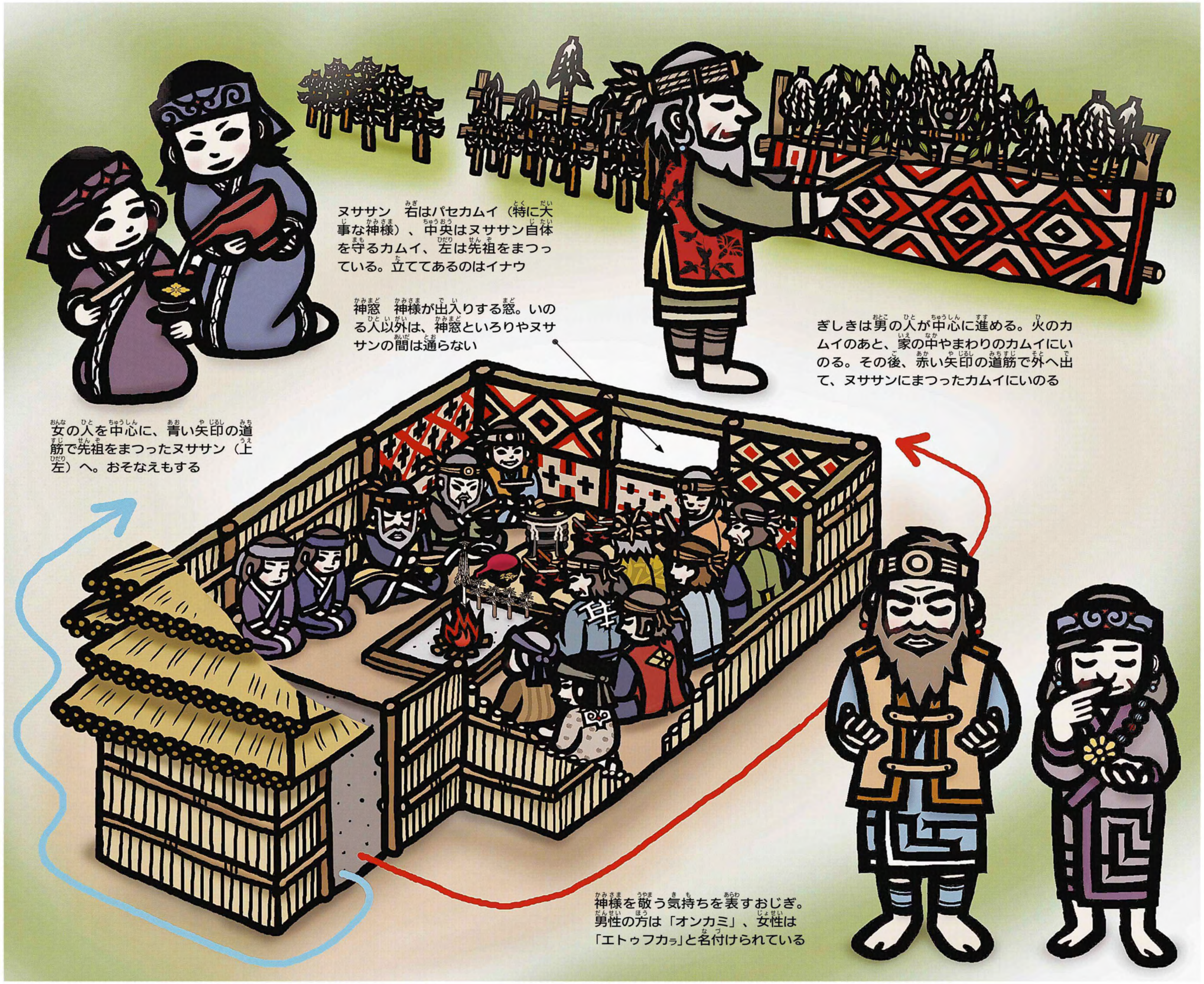
コタンノミはいっとき、あまり行われなくなりましたが、近ごろまた盛んになってきました。にぎやかなふんいき、きれいに作られたヌササン、おいのりの後に楽しむ料理と歌、おどり。春の訪れとともに、みんなが心待ちにしています。

*

【発音ガイド】 **小さいラ**　日本語のラにているが、弱く短く　**小さいク**　舌がのどのおくをふさぐようにして止める　**小さいプ**　くちびるを閉じて止める　**小さいム**　くちびるを閉じて止める

「春の祭り」の動画がどうしん電子版で見られます。スマートフォンを持っている人はQRコードから読みこんでください。

（提供・アイヌ民族博物館＝胆振管内白老町）



ヌササン　右はパセカムイ（特に大事な神様）、中央はヌササン自体を守るカムイ、左は先祖をまつっている。立ててあるのはイナウ

神窓　神様が出入りする窓。いのる人以外は、神窓といろりやヌササンの間は通らない

ぎしきは男の人が中心に進める。火のカムイのあと、家の中やまわりのカムイにいのる。その後、赤い矢印の道筋で外へ出て、ヌササンにまつったカムイにいのる

女の人を中心に、青い矢印の道筋で先祖をまつったヌササン（上左）へ。おそなえもする

神様を敬う気持ちを表すおじぎ。男性の方は「オンカミ」、女性は「エトゥフカㇻ」と名付けられている

クイズの答え

①いちやん　イチャン（卵をうむために、サケやマスが川の底をほった部分）　②わかちゃらせ　ワッカ（水）・チャラセ（すべり落ちる）＝水が流れ落ちる小さな谷　③ねっぷ　ネプ（流木）＝流木の多い場所

地名の意味にはいろいろな考え方があり、ここでは「北海道の地名」（著者・山田秀三、発行・草風館）を参考にしています

教えてくれる人

北原次郎太さん

東京都に生まれ、埼玉県上尾市で育ちました。自分がアイヌだと知ったのは4歳ごろ。親や周りの大人といっしょに、伝統的な歌や料理などを学ぶこともありました。日高管内平取町にいた祖母は、樺太（現在のロシア・サハリン州）生まれで、当時の暮らしや言葉を教えてもらいました。ずっと北海道が好きで、22年前に札幌市に来てアイヌ文化の勉強を始めました。

むかしのアイヌ民族の暮らしは、私も知らないことばかりです。特に言葉、音楽、文学、宗教のことを知りたくて調べています。長い歴史の中で生まれてきたアイヌ文化を広くしょうかいして、未来へつなぎたいと思っています。札幌市在住。40歳。北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授。

小笠原小夜さん

私の先祖は、日高管内新ひだか町静内地区のアイヌです。

子どものころ、学校でアイヌについて勉強する機会はほとんどありませんでした。大人になってから、日本の言葉や歴史と同じくらいアイヌのことも知りたい！と思い、少しずつ勉強を始めました。

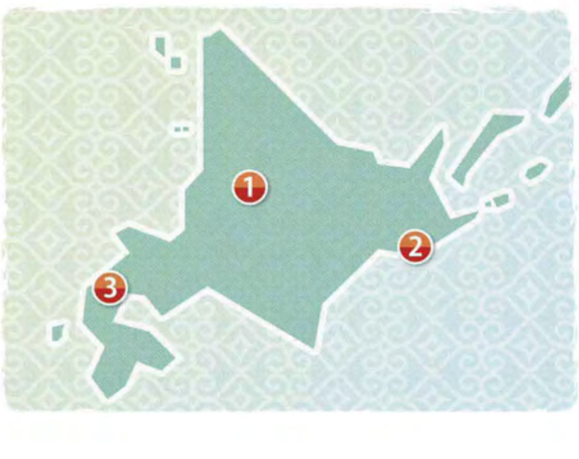
今は東京に住み、「アイヌ文化交流センター」で働いています。道外の人にもアイヌのことを知ってもらうための施設で、本や資料などがあります。

小さなころから絵を描くのが大好きでした。これまで学んだアイヌの世界を分かりやすくイラストにする仕事もしています。みんな、ミンタㇻで楽しく学びましょう。小樽市生まれで江別市育ち。42歳。

クイズ

道内の地名の多くは、アイヌ語が基になっているよ。いくつ読めるかな。

①深川市一已
②釧路管内釧路町分遣瀬
③後志管内黒松内町熱郛



答えはこのページの右上に

読む 聞く 話す

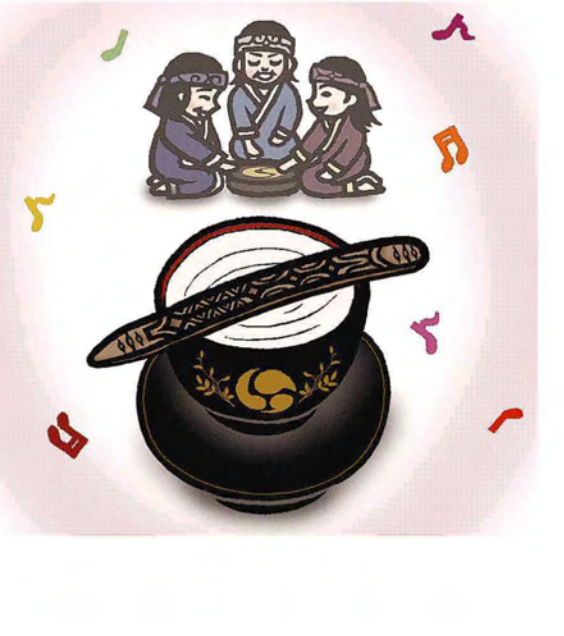
フライェ　トゥキ／ヘ　カンパスイ　カン／
ヘ　モㇺナタラ
ハウウォイ　ハウウォイ　ハウウォイ

洗ったおわんの　上にあるイクパスイが　ぷかぷかういてるよ

お祭りのときに、はずむ心を表し、楽しい気分を盛り上げる歌がたくさんあります。

この歌は女の人が数人で座って歌うウポポ（座り歌）で、日高管内の新ひだか町静内地区や平取町などでよく歌います。祭りの日のめでたい気持ちや、なみなみとつがれたお酒は、暮らしの豊かさを表します。

歌い方は、アイヌ語ではウコウㇰといい、「かえるの合唱」のような輪唱です。とちゅうで別な歌に次々切りかえて遊びます。「ハウウォイ」は、リズムをとるための言葉です。

音声を聞くことができます。スマートフォンを持っている人はQRコードから読みこんでください。